

南山大学図書館報

ΔΥΝΑΜΙΣ

No.27

グレゴリアン大学の図書館

1995.10.1

浜口 吉隆

阪神大震災からちょうど半年になるが、その後遺症はいろんな形で子供やお年寄りたちの心に現れているという。あの時ローマでは政権の地盤が揺らいでおり、報道は専ら新政権誕生に向けられていたためか、大震災のテレビ・ニュースは三日間だけで終わってしまった。そこで噂に聞いていた衛星版の朝日新聞を求めて日本人観光客が多く訪れるパチカンまで足を運んでみたが、売り切れていた。幸いに、翌日からはグレゴリアン大学のすぐ近くにある「テレビの泉」の売店で入手できたので、図書館に持ち込み隅々まで読んだ。記事は二日遅れのものであったが、少しずつ災害の模様を知ることができた。前と横にいた学生神父やシスターたちが私の新聞を見て、地震の悲惨さばかりでなく日本語の難しさに驚いていたようだった。漢字と平仮名とカタカナについて話すと、「日本語を習得するには何年かかるのか」などと質問してきた。確かにアルファベットの言語は便利である。

以前の留学から十二年ぶりに訪れた図書館の受付にはまだ同じ人が座っていた。三月月間の使用許可を依頼し、利用時間について尋ねてみると少し変更がみられた。以前は午後一時に閉館し、昼食やシエスタ（午睡）をとって三時に開館して六時終了であった。教皇庁立のグレゴリアン大学はイエズス会が経営しており、現学長は上智大学の理事長や学長を歴任されたピタウ神父である。今では約120ヶ国の学生が籍を置いているという。その便宜をはかり朝八時に開館し、シエスタを返上して午後七時に閉館するようになっていた。私のような短期間の利用者にはありがたいことだった。入館するとき学生証または使用許可証を受付に残して、ノートに署名する方式は以前のままだった。開架図書は少ないが、当大学での博士論文、製本された最新十五年間の雑

誌類は自由に閲覧できる。何世紀に建てられたものだろうか。建物の天井が高く深呼吸するにはいいが、吹き抜けの三階までの側面に設けられた書架への階段を上り下りする靴音だけは相変わらず耳障りだった。その方向に一斉に向けられる視線にも気付いてくれない鈍感な人もいる。

図書館外への貸出はできない。必要な書籍は借借書を書いて係にお願いすればいい。ただこの受付も午前中だけである。図書館内では一週間利用できるから、「使用中」の紙を挟んで確保しておかなければならない。土曜日になると、係がすべて整理してしまう。学生たちからの苦情の一つは教授連が自室に長期間持ち込んでいる書物が利用できないということである。これはどこでも共通している悩みかもしれない。また必要な資料のコピーは複写機カードを利用するか、コピー専門の係に依頼する。この係も以前と同じ人だったのには驚いたが、お互いに頭髪も白く薄くなったことを確認して談笑した。一冊の本でも幾つの論文でも快く引き受けてくださる有り難い方だった。多くの国々からの学生たちが集まる懐かしい図書館を再び利用し、新鮮な刺激を受けることができた喜びを味わっている。人類の遺産を納めている一つの図書館でそれぞれに興味あるものや専門分野の真理を探求しながら、苦勞のなかにも静かに満たされてゆく心の豊かさは何ものにも変え難い。自然との触れ合いとともに、人類の歴史のなかで築き上げられてきた「知識の蔵」を大切にしたいものである。そういえば、「テレビの泉」にコインを投げ入れてくるのを忘れていた。幾世紀も流れ続ける泉に人が群がるように、「知識の蔵」は人のある種の渇きを癒してくれる場なのであろう。
(Yoshitaka Hamaguchi: 文学部助教授 浜口吉隆)

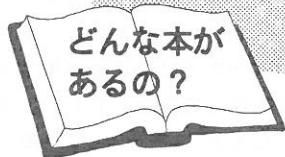
¡VENGAN AL CENTRO DE ESTUDIOS LATINOAMERICANOS!

研究センター紹介
第3弾!

ラテンアメリカ研究センター

L棟5階

今回は、ラテンアメリカ研究センター（略してラテ研）を訪れ、センター長の富野幹雄先生と、職員の日比野愛子さんにお話を伺いました。



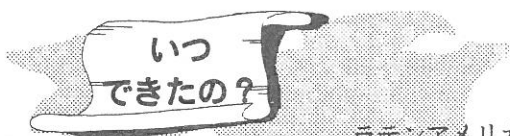
次のようなものが揃っています。
これだけ揃っているのは中部では大変珍しいらしく、県外から訪れる人もいる程です。

- 蔵書数・・・約1万600冊（8割が洋書）
- 雑誌・・・253タイトル（内239タイトルは洋書）
- 新聞・・・現在7種

- EL Día, Excelsior（メキシコ）
- La Nación（アルゼンチン）
- Folha de S. Paulo（ブラジル）
- Granma（キューバ）
- International Press(日本で出版している西語新聞)
- International Press(日本で出版しているポルトガル語新聞)

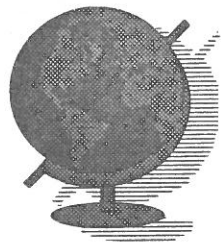
- 国別ベスト3**
- ① アルゼンチン
 - ② パール
 - ③ ブラジル、メキシコ

- 分野別ベスト3**
- ① 社会科学
 - ② 歴史
 - ③ 産業

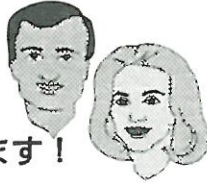


ラテンアメリカ研究センターは、1964年イスパニア科の有志の教員によって設立された“イベロアメリカ研究所”が源です。1983年に再編成され、現在の“ラテンアメリカ研究センター”が誕生しました。

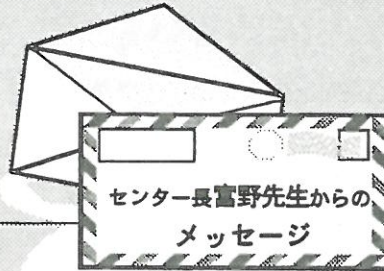
ラテンアメリカに関する学際的な視野に立った地域研究を行い、中部圏におけるラテンアメリカに関する情報センターとしての機能を持たせることを目的として活動しています。



ラテ研を訪れると こんないいことがあります！



- ①ネイティブスピーカーが多く出入りしますので、現地の情報を聞けたり、会話の練習もできたり、更には研究の相談にもものってくれたりします。
- ②ラテンアメリカに関する情報が大学内外に関わらずいろいろ得られます（コンサート情報 etc...）
- ③自習もできます。
- ④常連になれば特典があります。
(何かはヒ・ミ・ツ)



イスパニア料の学生の利用を図るために、スペイン・ポルトガルに関する書籍も充実する予定です。

催しもの 講演会

政治・経済・教育・労働問題などをテーマに、年に5~6回ほど開催します。
★次回の講演会は10月の予定です★

出版物

ワーキングペーパー（研究論文）
年に1,2回発行します。



利用方法

- どなたでも利用出来ます。
- 身分証明書(学生証でO.K.)を呈示すれば、すぐ利用カードを作ってくれます。
- 一般図書 2冊 2週間まで
- 卒論用 5冊 1ヶ月まで
- 利用時間 平日 9:45 ~ 18:30

場所

1棟5階
エレベーター左の扉
ラテン研研究センター図書室
が目印です。

以上のように、ラテ研は盛沢山。
イスパニア科の学生でなくても、ラテンアメリカに少しでも興味のある方は、是非訪れてみてください！

Esperamos que vengan...

図書館の企画展

生物学教室展示会

「蝶の飛ぶ南山のもり
—身近な緑を考える—」

展示期間 1995年10月30日(月)～11月11日(土)

街から自然はなくなったのでしょうか。

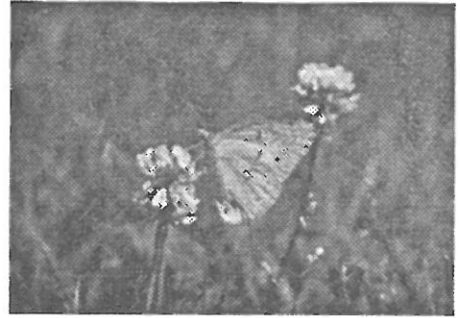
ベランダの鉢植えのみかんや山椒に、アゲハチョウの幼虫をみつけたことはありませんか。住宅のまわりはすっかり緑がすくなくなり、自然がなくなってしまったとあきらめていたあなたは、きっと自然の力強い息づきに感動されたはずです。

子供といっしょに町の中や川辺を歩いてみましょう。緑はどんなところにあるのでしょうか。住宅街の小さな庭、神社の緑、川辺の林、公園。どこをとっても小さな緑の塊で、町全体からみれば小さなパッチワークにすぎません。

しかし、あなたのベランダの鉢植えに卵を産んだ蝶は、そんなパッチワークの中を放浪しながら生きているのです。でもその環境はちょっとしたことでも破壊されてしまいます。



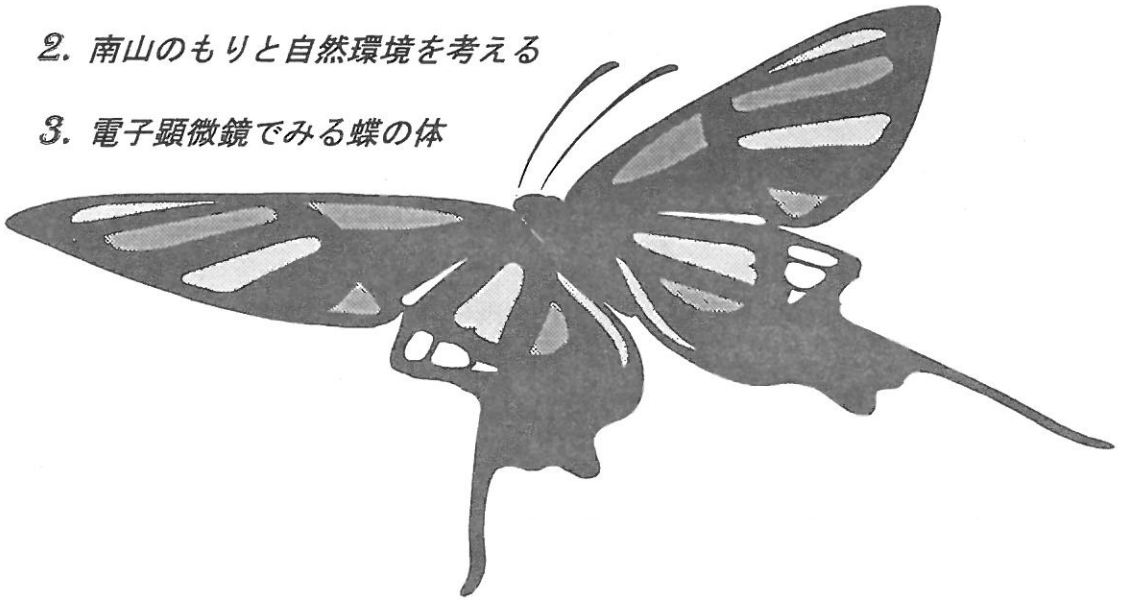
私たちは森林地帯や大草原のような広大な景観を「自然」と考えがちです。しかし、私たちのまわりに広がる環境はそうではありません。たくさんの緑があっても、それが川や畑や空き地で分断され、さながらパッチワークの様相を呈しています。



あまり知られていませんが、じつはこのパッチワークのような環境には、意外と多くの昆虫や小動物が生息しています。蝶も飛ばない、せみも鳴かない緑は私たちには味気ないものです。同じ緑でも、それらを街の中にうまく配置し、樹種や草花を工夫すれば、子供たちが昆虫網をふる姿をみかける「生きた緑」をつくることができます。

【 展 示 内 容 】

1. 世界の蝶
2. 南山のもりと自然環境を考える
3. 電子顕微鏡でみる蝶の体



【日時】 1995年10月30日(月)～11月11日(土)

【場所】 南山大学図書館1階 会議室

【主催】 南山大学生物学教室、南山大学図書館

< 資料紹介 >

読書の秋にお薦めの一冊

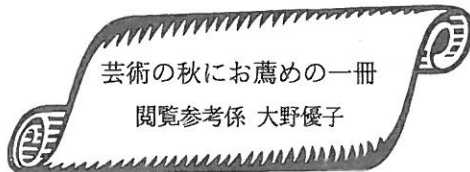
子丑寅卯辰巳午未申酉戌亥子丑寅卯辰巳午未申酉戌亥子丑寅卯辰巳午未申酉戌亥子丑寅卯辰巳午未申酉戌亥
 「十二支のかたち」柳宗玄著 岩波書店 1995
 (同時代ライブラリー ; 214) 【081K/2445/v.214】
 図書整理係 長沼真理子

今日の私たちの日常生活において十二支というと、年賀状か、いわゆる「何どし」という年齢にまつわる話題くらいの縁でしょうか。十二支の「子・丑・寅・卯...」は、現在「ね・うし・とら・う...」と読みそれぞれ動物をさしていますが、これらの漢字の元の意味をたどると、実は動物とは全く無関係で別の

ものを表していたのだそうです。十二支の漢字と動物とが結びつけられたのは、中国の漢代あるいは戦国時代のことですが、由来などははっきりしたことは謎のままです。

本書で著者は、「漢字のかたち」を考慮しながら、十二支の漢字の本来の意味や動物と月暦との関係を探っています。同時に、美術を専門とする著者らしく東洋・西洋の美術に表現された十二支の動物を示し、世界各国での神話的背景を述べています。一動物あたり7~10点、総計101点の造形表現が紹介されており、こちらは「美術的なかたち」から見た十二支です。登場するのは十二支の動物ばかりですが、古今東西を問わず取り上げられているのであまり十二支論という印象を受けません。

自分の十二支には親しみがあるもの。いろいろな国で自分の十二支の動物がどのように見られていたのかにも興味があります。年賀状の図案を考える時の参考にも、どうぞ。



私のお薦めの本は、1994年度毎日芸術賞を授賞した、今秋封切られる映画の原作です。皆さん何かお分かりでしょうか。『深い河 (ディープ・リバー)』遠藤周作著です。この本は既に英訳され、海外でも出版されました。

物語は、魂の転生の観念にとりつかれた老サラリーマン、自然との対話を求める童話作家、戦争の出来事での罪の意識によって自滅した親友を弔う男性、真の愛を知らず学友を誘惑したり、無意味な結婚と離婚の後に何か真実なものを求める女性のいずれも心の奥に闇を抱えた四人の男女が団体旅行につどう。そして、その女性にもてあそばれたキリスト教信者だった学生が物語全体を通してかかわってきます。彼は神父の道を歩むものの、教会の西欧的合理主義に適應できず、ヒンズー教の中に自分の信じる神を求めるのです。彼らはインドの「深い河」畔に集まり、自分の人生観に決着をつけようとするのです。

あなたは、原作を読んでから、映画を観ますか。それとも映画を観てから原作を読みますか。どちらにしてもともかく是非一度この本を読んでみてください。

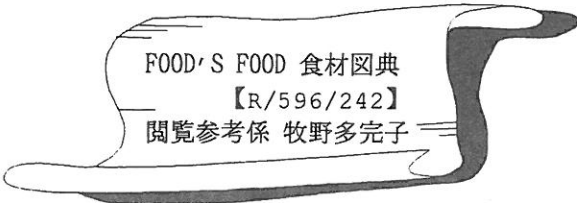
『深い河 (ディープ・リバー)』遠藤周作著 【913K/1936, 913/1936/A】
 『Deep river』(英訳本) Van C. Gessel 訳 【913C/2053】

秋の夜長に是非どうぞ。

また、関連した本として『「深い河」をさぐる』(文芸春秋 1994)が出版されています。

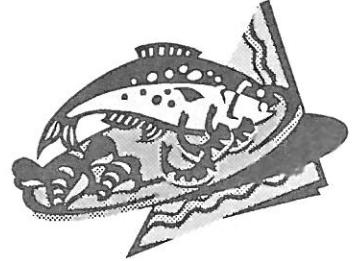


< 資料紹介 >

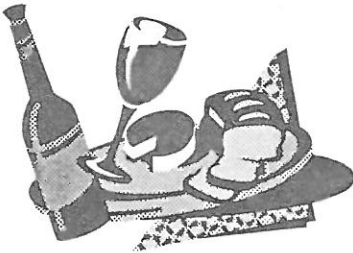


あの「食材図典」が、南山の図書館にあるのをご存知ですか？どうしても大学図書館の性格上、専門書や研究のための資料が多いのですが、ちょっと異色のこんな本もあります。読書の秋に相応しい・・・かどうかは別にして、この食材図典は魚介類、野菜、肉、穀類などの素材から香

辛料、調味料まで約1700種の食材が、イラスト付、カラー図版で紹介され、索引も和文、欧文、漢字画数順の3通りと充実しているうえ、現地名索引からは、海のものとも山のものともつかぬ名前の食材もひけるようになっています。また、それぞれの食材について、市場動向や、歴史、栄養成分、関連料理などの解説付。本文から例をとると、古くから炒ったり粥にして食べられてきたコムギは、今ではそのほとんどが小麦粉として使われていること、現在私達がふつうに食べている発酵パンの起源は古代エジプトに始まること、また、その小麦粉を使ってイン



ドやパキスタンではチャパティーとよばれるパンがあったり、イランやイラクではナンやタンナワーとよばれるパンがあることなどなど。また、世界の果物や旬の魚はもとより、食用クラゲの紹介まで、その好奇心は留まる所を知りません。そして「ヤツメウナギはウナギの仲間か?」「万葉集で詠まれた野菜」「正倉院文書にみられる野菜の記述」などのコラムも興味深い。食通の方もそうでない方も、是非一度、御一読・御乱読ください。



< 秋期図書館利用講習会のお知らせ >

☆☆ 図書館利用講習会を今秋も開催します! ☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆



ライブラリーツアー方式で館内の資料の探し方や利用の仕方をご案内する<初級編>、主に卒論やレポートの際の資料収集を目的とした<中級編>に分けて実施します。

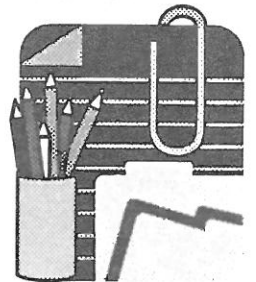
☆申し込みはレファレンスカウンターにて受け付けます。☆

講習会の詳しい日程は、巻末のライブラリーカレンダーをご覧ください。

もしこの日程で都合がつかない場合もできるだけ相談に応じますので気軽に声をかけてください。

春の講習会を受講しようとして、機会を逃した方、来年に卒業論文を控えているあなた、ぜひこの機会を利用しましょう!

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆



ライブラリーカレンダー

1995. 10~1995. 12

10月					11月					12月				
9:00	4:30	6:30		図書	9:00	4:30	6:30		図書	9:00	4:30	6:30		図書
	0:00	6:00	8:00			0:00	6:00	8:00			0:00	6:00	8:00	
1(日)					1(水)				初	1(金)				
2(月)				★	2(木)				中★	2(土)				★
3(火)					3(金)	文化の日				3(日)				
4(水)				初	4(土)				★	4(月)				★
5(木)				★	5(日)					5(火)				
6(金)				中	6(月)				★	6(水)				
7(土)				★	7(火)					7(木)				★
8(日)					8(水)				中	8(金)				
9(月)				初★	9(木)				★	9(土)				★
10(火)	体育の日				10(金)				初	10(日)				
11(水)				中	11(土)				★	11(月)				★
12(木)				★	12(日)					12(火)				
13(金)					13(月)				中★	13(水)				
14(土)				★	14(火)					14(木)				★
15(日)					15(水)				初	15(金)				
16(月)				★	16(木)				★	16(土)				★
17(火)				中	17(金)					17(日)				
18(水)				初	18(土)				★	18(月)				★
19(木)				★	19(日)					19(火)				
20(金)					20(月)				★	20(水)				
21(土)				★	21(火)				初	21(木)				★
22(日)					22(水)				中	22(金)				
23(月)				★	23(木)	勤労感謝の日				23(土)	天皇誕生日			
24(火)					24(金)					24(日)				
25(水)				中	25(土)				★	25(月)				
26(木)				★	26(日)					26(火)				
27(金)				初	27(月)				★	27(水)				
28(土)				★	28(火)					28(木)				
29(日)					29(水)				初	29(金)				
30(月)				★	30(木)				中★	30(土)				
31(火)										31(日)				

■ : 開館時間

図 : 図書館利用講習会 (初: 初級編 中: 中級編)

書 : ★ 3・4年次生書庫入庫日 (月・木曜 1:00~4:30p.m., 土曜 9:00~11:30a.m.)

《編集後記》

読書の秋。芸術の秋。

季節外れの蝶に会いに来ませんか？

(タイトルデザイン: 加藤富美)



南山大学図書館報 デュナミス No.27
1995.10.1 発行

南山大学図書館 広報委員会
編集委員: 加藤(あ), 山口, 加藤(久), 長谷川
〒466 名古屋市昭和区山里町 18
Tel. 052(832)3707
Fax(G3) 052(833)6986